

個人テーマの設定について

今年度の授業改善委員会は、各教科で「授業力向上推進プロジェクト」として、新学習指導要領の趣旨である「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善及びICTの活用を主眼に置いた実践・研究を行いました。

「授業力向上推進プロジェクト」英語科として、昨年に引き続き、「主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善」を全体テーマとし、その上で各委員の所属する各学校の生徒の実態や課題、また、育てたい生徒像等を踏まえて個別のテーマを設定し、日々の授業をいかに「主体的・対話的で深い学び」につなげていくかという視点で実践研究を行いました。

【日比野彰朗（岐阜北高校）】

生徒の現状を見ていると、言われたことは素直に取り組むが、主体性が弱いように思われる。また、自分自身の授業を振り返ると、「自ら課題を発見し、問いを立てて、解決策を考える」という社会に出て必要な能力を育てている実感がもてない。そういった2点の課題を考えた時、「探究学習」を授業に問い入れることが、それらの課題を解決する鍵になるのではないかと考え、個人テーマを「英語の授業における探究型学習の導入」とした。

【安藤万莉英（大垣北高校）】

学習指導要領の改訂に伴い、生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成する授業が各教科で研究されている。英語は、アクティブラーニングの観点から、アウトプットを重視した「話すこと」や「書くこと」の指導に注目が集まることが多い。しかし、日常生活においては、「読むこと」を避けては通れない。授業内においても、様々な読む場面がある。例えば、活動を始めるためや内容理解するためなどである。指導上、「読む」授業を展開すると従来型の訳読式に陥ってしまう可能性もある。イギリスでの研修に参加する前の「読むこと」の指導は、テキストの内容の理解と言語材料や文法語法の知識理解を主な目的にしており、Q&A を使ったやり取りやグループ討議、新出の言語材料を使った英作文等を実施しているとはいえ、生徒の主体的、対話的で深い学びが達成できているか、という点で改善が必要であった。そこで、生徒がテキストの主題に主体的に迫り、読むことで自らの考えを深められるような、読むことの指導改善を図りたい。また、今年、全教室に配備されたプロジェクターを活用した授業づくりをしたい。このような理由で、個人テーマを「読むことを通して、思考力を高める授業」と定めた。

【西川かおり（加納高校）】

本校は進学校であり大学受験を意識して学習をする生徒が殆どであり、自ら積極的に英語の学習に取り組む生徒はあまり多くない。主体的に学ぶ意欲が湧くのは、「続きが知りたい」「もっと知識がほしい」「もっと〇〇できたらいいのに」と知的好奇心が刺激されたと

きである。また、最も知的好奇心が刺激されるのは、自分の視野の狭さを感じると同時に、知識の深まりとともに自分の世界が広がっていくことを実感したときではないかと思う。こうした考えのもと、今年度は「主体的に学ぶ姿勢を育む授業」を個人テーマとし、論理的に意見を述べる（書く・話す・発表する）活動を中心に、いかに生徒の知的好奇心を刺激するかを研究したい。

【林ちひろ（関高校）】

教科書の内容が授業内やレッスン内だけでとどまり、深い学びにつながっていない現状がある。本文をただ読ませるだけでなく、オーセンティックな教材を用いて興味関心を引き出すとともに、定期的に自分の意見を述べる機会を設け自己と関連付けながら読む習慣を身につけさせていきたい。また、発信力の強化に関しては、授業を行う中で、ある事柄について、「どう思うか」「どう改善したらよいと思うか」のような自分の意見が求められる問いに対して、「何も思いつかない」「わからない」と答える生徒が多いため、自分の意見を発信することの大切さを認識させ、発信力を高めていくことが大切であると考え、個人テーマを「自己表現力の育成」とした。実践研究を通して、今後の大学入試や社会で求められる力にも目を向け、自分の意見を持ち、それを表現できる自己表現力を伸ばしていきたい。

【林正幹（恵那高校）】

本年度は3年間持ち上がりの学年が最終学年を迎え、生徒の受験を下支えしていく1年となる。本校では3年次になると、授業時間中演習の占める時間が多くなり、入試を意識した授業が行われる。そこで入試問題に目を向けると、リーディングが占める割合が大きい。最近のリーディングの傾向としてははっきり言えるのは英文の長文化である。長めの長文を読み、その大意をつかみ、内容を評価し、文同士のつながりや各段落の文章全体の中での働きなどを把握することが求められるようになってきている。また、国公立大学の個別試験を中心に、英語文法や英文解釈の技術がなければ太刀打ちできない問題が未だに多い。その結果多くの生徒が自身のリーディング力不足に不安を抱えるようになっており、生徒に自信を持たせるためのリーディング指導は絶対的に必要である。一方で、新学習指導要領では4技能5領域を高めるための指導が求められており、実際の入試問題でも技能統合型問題で自分の考えを論理的に記述させたりするように、徐々にアウトプットが求められるようになっている。入試に対応する確かなリーディング力を養いながらも、それ一辺倒にならない授業を考案する必要があると考え、個人テーマを「大学入試（特に国公立大学個別試験リーディング）を突破する学力を定着させる指導と、すべての技能を伸ばすための指導との融合」とした。

【高田敏博（中津川工業）】

昨年度は、スモールステップで Retelling を行う活動を行った。その内容としては教科書の内容に関する細かな質問に答え、それをつなげて Rephrase し、重要語句だけを見て、

内容を相手に伝えるというものである。スモールステップを踏むことで無理なく活動を行うことができるが、問題点は、時間がかかりすぎることと『自分で書く力』が不足していることである。今年度のコミュニケーション英語Ⅰでは、前期に Retelling 活動を行い、後期にはステップを少し外して『書くこと』を意識した Retelling の活動を行いたいと考えている。また、３年生で英語表現Ⅰを行っているが、文法だけを学ぶのではなく、実際に『考えて書く』活動を多く盛り込み、『正しく伝わるように書きたい』と思わせるような授業を展開していきたく考え、個人テーマを『書くこと』を主体的に取り組むことができる授業の構築と効果的な ICT の活用」とした。昨年度同様スライドを多く用いて授業を行い、デジタル教材の効果的な指導法も模索したい。